

# 土地利用計画図

開発許可  
年月日

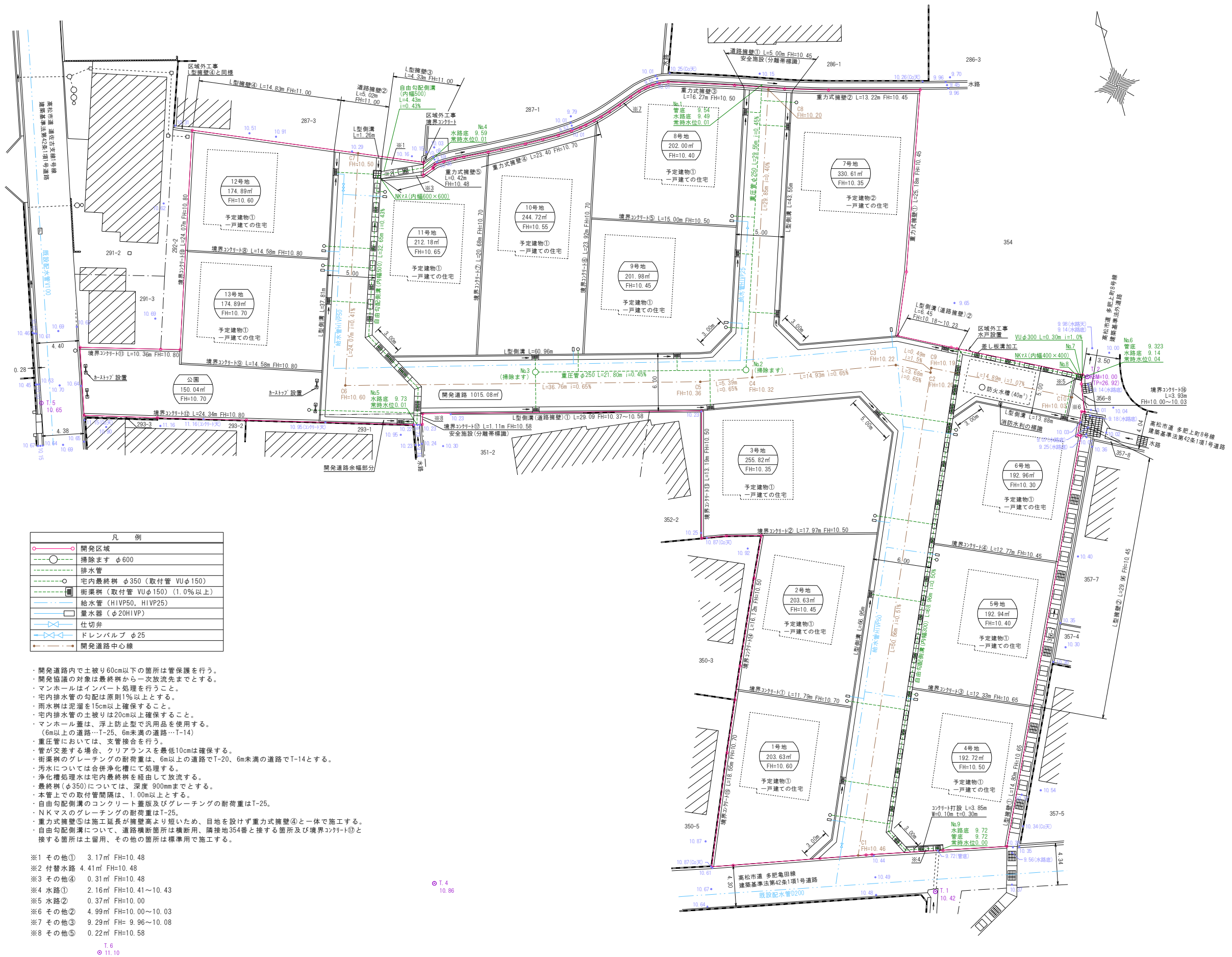
第 令和 年 月 日  
号

申請者

株式会社 ライフィックス  
代表取締役 向井信朝

作成者  
住所・氏名

高松市川島本町式八番地 壹  
行政書士 横井清英



凡例	
	開発区域
	掃除ます φ600
	排水管
	宅内最終樹 φ350 (取付管 VUφ150)
	街路樹 (取付管 VUφ150) (1.0%以上)
	給水管 (H1VP50, H1VP25)
	量水器 (φ20H1VP)
	仕切弁
	ドレンバルブ φ25
	開発道路中心線

- ・開発道路内で土被り60cm以下の箇所は管保護を行う。
- ・開発協議の対象は最終樹から一次放流先までとする。
- ・マンホールはインバート処理を行うこと。
- ・宅内排水管の勾配は原則1%以上とする。
- ・雨水樹は泥溜を15cm以上確保すること。
- ・宅内排水管の土被りは20cm以上確保すること。
- ・マンホール蓋は、浮上防止型で汎用品を使用する。(6m以上の道路…T-25, 6m未満の道路…T-14)
- ・重圧管においては、支管接合を行う。
- ・管が交差する場合、クリアランスを最低10cmは確保する。
- ・街路樹のグレーチングの耐荷重は、6m以上の道路でT-20, 6m未満の道路でT-14とする。
- ・汚水については合併浄化槽にて処理する。
- ・浄化槽処理水は宅内最終樹を経由して放流する。
- ・最終樹(φ350)については、深度 900mmまでとする。
- ・本管上での取付管間隔は、1.00m以上とする。
- ・自由勾配側溝のコンクリート蓋版及びグレーチングの耐荷重はT-25。
- ・NKマスのグレーチングの耐荷重はT-25。
- ・重力式擁壁⑤は施工延長が擁壁高より短いため、目地を設けず重力式擁壁④と一体で施工する。
- ・自由勾配側溝について、道路横断面は横断用、隣接地354番と接する箇所及び境界コナット⑦と接する箇所は土留用、その他の箇所は標準用で施工する。

- ※1 その他① 3.17m FH=10.48
- ※2 付替水路 4.41m FH=10.48
- ※3 その他④ 0.31m FH=10.48
- ※4 水路① 2.16m FH=10.41~10.43
- ※5 水路② 0.37m FH=10.00
- ※6 その他② 4.99m FH=10.00~10.03
- ※7 その他③ 9.29m FH= 9.96~10.08
- ※8 その他⑤ 0.22m FH=10.58